

# 根木内歴史公園:湿地の観察会報告(2012/3/13 実施)

2012/3/22 文責/編集：相澤

参加者：相澤、市川、佐々木（初参加）、染谷、高橋、西澤、三井、山田（洋）

天気が良くても風が強く、寒い日でした。しかし観察をしてみると、こんなに寒い中でも多くの”春”を見つけることができ、一同感心。三井さんのお仲間の佐々木さんが参加して下さり、素晴らしい野鳥の写真など撮っていただきました。。

## ◇観察した野鳥 観察順、()内の数字は個体数

●湿地部：ハクセキレイ (1)、ムクドリ (5)、ツグミ (1)、シジュウカラ (1)、コゲラ (1)、カワウ (3, 上空通過)、ハシブトガラス (2, 上空通過)、ウグイス (3)、メジロ (1)、ジョウビタキ (1)、キジバト (2)、ヒヨドリ (1)、アオジ (1)

●台地上(城址部)：エナガ (2)、ハシボソガラス (2)、ハシブトガラス (1)、ジョウビタキ (1)、シジュウカラ (1)、ヒヨドリ (2)、コゲラ (1)、ドバト (3)、ツグミ (1)、メジロ (1)、ウグイス (1)

●風が強いため、鳥はあまり見られないかと思われましたが、予想に反してたくさん見ることができました。冬鳥は来月には北の地へ帰って行ってしまうのでしょうか？

## ◇今日のお気に入り

### フキノトウ



目にとまった瞬間「おいしそう！」でした。苞に包まれた若い花茎がフキノトウで、フキノトウは春一番の摘み菜とか。フキは雌雄異株で、雄株は黄白色の頭花を多数つけるそうですが私は見たことがありません。私達が食べるのは雌株・雄株の頭花です。北に行くほど葉が大きくなるとか。葉も茎も太くて、あまりおいしそうには見えませんでした。数少ない日本原産の野菜とか。きょう観察したなかで他に、タンポポ・ヨモギ・セリ・ナズナ・ノゲシ・ハルジオンの葉も食べられます。

「天ぷら」でいただいでみては・・・きょうのおすすめです。(高橋)

### オオイヌノフグリ

オオイヌノフグリの花の色は陽にあたっている場所では群生、ブルーの宝石の様に輝いて見える。(山田)

ありふれた花ではあるが、何度見ても淡い瑠璃色とキャッツアイのような模様がおしゃれで、とくに群生している様に魅入られた。(三井)



写真：三井→

### ニワトコの新芽



↑写真：三井

混芽が開き始めており、赤紫色と新緑色のコンビがきれいであった。ただ葉痕がみられなかったのは残念、来年こそは。(三井)

新しい赤っぽい葉が伸びてました。よく見ると、葉の中にモコモコとしたブロッコリーに似た小さな蕾のかたまりが付いているのもあります。寒さはまだ残っていますが、ちゃんと春を感じて目を覚ましているんですね。また新しい生の営みを始めてました。ちなみに、この蕾のかたまり、食べられると教えてくれた人がいましたが、図鑑には、毒性のある青酸配糖体を含むので食べない方がいいと書いてありました。そう言えば、食べられると教えてくれた人も、一度に沢山食べない方がいいと言っていましたっけ。要注意です。(市川)

### ナズナの花

普段あまり気にとめない花ですが、今年初めて出会ったし、予期していなかった。相澤さんから、ナズナを詠んだ芭蕉の俳句『よく見れば薺花咲く垣根かな』を教わり大変印象に残った。(三井)

### タネツケバナ

ロゼットもきれい。葉も放しゃ状に整っている。花も小さく白い、春を告げる花



ナズナの花 ↑写真：三井



タネツケバナの花 ↑写真：染谷



ナズナのロゼット

## 今日のつれづれ

日射しは春、風は真冬のように冷たく寒い根木内歴史公園でしたが、湿地には沢山の水がたまっていて、風が強いせいかさざ波がとめどなく寄せてきていて... 柔らかく光る水面は春の風情。その付近で、野鳥たち(セキレイ、アオジ、ツグミ、椋鳥、メジロ... など)が餌を啄みながら遊んでいる姿は平和そのもの... 枯れた葦原の中には鶯の姿も... 美しい「ホーホケキョ」の音が聞かれるのももうすぐでしょう....



ウグイス

↑写真：佐々木



ホトケノザ

↑写真：染谷

今日のお気に入りには露の臺の花。蕾のうちに食べてしまっていて、花の開いたのを見たことがなかったのに気が付きました。雌雄異花だそうですがそれも知りませんでした。花を見たと言っても、開き始めた一輪の雄花。全ての花が開花した状態を見てみたいと思いました。雌花は受粉後花茎を伸ばし、タンポポの綿毛のような種をつけるとか... これも見たいです。

2月の末頃にはオオイヌノフグリの可愛らしい花はあちこちに広がって咲いていましたが、他の者達の姿はほとんど見られませんでした。露の臺、タンポポ、ヒメオドリコソウ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ハコベ、ナズナ、ホトケノザ.. などの野草の花や蕾があちこちに... 小さな芽を出したりロゼットを広げている姿には、新しい小さな命の湧き出でるような活力を感じました。

肌を感じる空気は冷たくても、心を感じるものはまさに春... これから日に日に生長し、膨らんで行く緑を思うと、嬉しくなりました。



イラガのまゆ

写真：染谷



タケカレハガ?の繭

上を見上げると、ニワトコの木には花芽が、アオキには赤い実が沢山、椿の咲き初めの花の美しいこと~。4月には白い美しい花を咲かすモミジイチゴにも新芽が萌え出ていました。

イラガの繭を見付けたり、笹の茎に着いていた黄色い繭はタケカレハガの繭でしょうか? 触ると丈夫な和紙のような感触がしました。エノキの幹には他の昆虫を捕まえて体液を吸うというヨコヅナサシガメが見られました。

秋には黄色く色付く木櫛の枝越しに見える空は真っ青... 気持ちの良い花暦の日でした。(染谷)

空は青空、今日は観察日和？  
いえいえ、なかなかそうはいきません。  
風がとても冷たかったです。それでも、あちこちに春のきざしを見ることができました。  
ナズナの葉、  
最初の頃はギザギザのロゼットです。これがのびるに従って、ギザギザのきれこみが少なくなるのですね。

写真：染谷→



**アオジ** ↑写真：佐々木

芝生広場で、ヒヨドリ、ムクドリ、ハト、ツグミ、ジョウビタキなど順番に芝生に降りてきて、盛んになにかをついばんでいました。おいしいごちそうがあったのかしら？春を感じて、ムシがうごめき始めたのかもね。  
シジュウカラは梅の枝についているカマキリの卵をつつきにきました。  
今年は水の供給がよく、湿地に湖ができあがっています。  
植物たちにとって、湖のような状態は良いのか良くないのか、今はわかりませんが、どうなのでしょうね。(西澤)

アシを刈った地面から、セリやミゾソバが芽をだしています。夏にはアシが生い茂ってしまい、小さな植物はきっと生きていけないでしょうが、アシが刈られたすきをねらって、芽をだすたくましさ、さすが湿地に生きるチカラです。アシの茂みのなかにウグイスとアオジがいっしょにいて、両方を観察できたのは、うれしいことでした。  
茂みのなかから声は聞こえても、姿はなかなかみせてくれませんかから。



根木内歴史公園の湿地の観察会は毎月第2火曜日に行っています(雨天時は次の日に延期)。4月は10日(火)の予定です。いったい何種類の花が咲いているのでしょうか？

9:30に公園駐車場に集合で、昼まで観察を行い公園内で昼食を食べます。

お問い合わせ(千葉大・相澤)

E-mail: akihitoaizawa@gmail.com



雌雄ほぼ同色

ハクセキレイ



今冬、飛来が遅かった

ツグミ



別名「春告鳥」

ウグイス

### 野鳥

カワウ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウガラ、ジョウビタキ、メジロ、アオジ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

(番外)トハト 14種

### ウグイスの笛鳴き

「チャッチャッ」と地鳴きしながら北側湿地のヨシの中を移動していました。ヨシの切れ目で、運良く姿を撮影することができました。



樹上で採餌

エナガ



渡秋飛行

ヒヨドリ



マキの仲鞘を食う

シジュウガラ



鳴き声は「ヒッヒッ」

ジョウビタキ



地鳴きは「シヤッ」

アオジ



群れて生活

ムクドリ



根木内公園・城郭範囲

根木内城の遺構を色濃く残した公園です。また豊かな樹林地や湿地といった自然にも恵まれています。



根木城の復元イメージ



ミクリ池



斜面林



北側湿地



上富士川



高台の広場



池・畦道



斜面絞り水の溜まり



食(夜具)にたとえた

ミノフスマ



湿地に群生

セリ



果序の形が蛸の足

タコノアシ



春の使者  
(落の臺)

フキ



中国原産

トウネズミモチ



混芽(花芽と葉芽)

樹木

ニワトコ



葉裏

日にかざすと脈が透けて見えるのが特徴



稲架木、稲木ともいう

ハンノキ



早い芽吹き

モミジイチゴ



別名シロザクラ

イヌザクラ



もむと胡瓜の匂い

キュウリグサ



出芽間もない

ミソソバ

**野草**  
会員の方にお聞きした園内の代表種  
・アリアケスミレ  
・タコノアシ  
・ミクリ